日　時　令和４年９月26日（月）第4-6校時　　生　徒　８年A，B，C組
授業場　各教室　　授業者　市　林　　竜

１．単元名　NEW HORIZON 2, Stage Activity 1 “A Message to Myself in the Future” (pp. 48-51)

２．単元の目標

(1)　自分の将来の職業について考える。（題材）
(2)　これまで学習した内容を用いて、70語以上の文章が書ける。（知識・技能）
(3)　読み手を意識したわかりやすい内容で、メモ等をもとに文章を書くことができる。（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）

３．単元の評価規準　＜書くこと＞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア[知識･技能]これまで学習した内容を用いて、自分の将来就きたい職業ややってみたいことについての70語以上の文章が書く知識・技能を身につけている。(W)	イ　自分の好みやクラスメイトからのアドバイスを基にし、将来の自分への手紙をクラスメイト等にとってわかりやすく、まとまりのある文章で書くことができている。（W）	ウ　自分の好みやクラスメイトからのアドバイスを基にし、将来の自分への手紙をクラスメイト等にとってわかりやすく、まとまりのある文章を書こうとしている。（W）

４．単元のデザイン（全４時間）　　主張する手立て

時間	■ねらい　言語活動等	評価の観点			備考
		知	思	態	
1	■パフォーマンステストの内容理解 ■自分の好きなことについて考える（STEP 1） ・ウォーミングアップ（歌） ・前時の復習（Let’s Write 1 (p. 45)） ・自分の好きなことや得意なこと、興味があることについて書き出し、それをグループで共有する	(ア)	(イ)		・１、２時間目までは記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して、活動の様子をしっかり見取り、適宜助言を与える。 ・授業態度や発言内容、ノート等の記述を見届け、即時的な指導とその後の指導両方に生かす。
2本時	■パフォーマンステストの詳細理解 ■自分の向いている仕事について考え、メモを書き出す（STEP 2） ・前時の復習（将来に関する好きなことや興味があることに関する会話のペアワーク） ・向いている仕事についてグループ内で話し合い、その後メモを書く ・教科書の例を確認 ・パフォーマンステストに向けての説明と目標設定	(ア)	(イ)		

3	■これまでのメモ等をもとに将来の自分への手紙を書く(STEP 3) ■Unit 3 の英文を正しく読むことができる ・ライティングテストと Unit 3 の音読テスト	ア	イ	ウ	・授業後に用紙の回収を行う
4	■他人の書いた文章から学ぶ ■より良い文章を考え、文章の修正を図る ・ウォーミングアップ（歌） ・前時のフィードバック ・文章をグループ内で読み合い、コメントしあう ・他者との比較から、文章を修正する	(ア)			

５．本時の目標（2/4）

(1)　自分の好みや興味あることやグループからのアドバイスをもとに、文章の軸となるメモを書くことができる。(W)

(2)　教科書の例を見て、まとまりのある良い英文について理解を深める。

(3)　パフォーマンステストの内容を理解し、目標を立てる。

６．本時のデザイン

主張する手立て

教師の働きかけ（●発問，▲補助発問，■指示・説明） 〇子供の学習活動	◆留意点　※評価
１．復習：STEP 1（p. 48） 教科書をモニターに提示し、板書しながら説明 課題　将来の自分に向けたメッセージを書く準備をしていこう ■You are preparing for writing a message to yourselves in the future. You talked about your favorites and so on last time. Please remember them again. So now please ask your partner, “What do you like/What is your favorite?”, “What are you good at?”, or “What are you interested in?” You can look at your textbook but when you talk, make eye contacts. 「お互い何書いてあるのか覚えてないだろうから、答えられない場合は I don’t know.でも良いし、その場で書いていないことを答えても良いです。」 質問の一部を板書しながら、リピートさせる 〇ペアで会話する(教科書を見ても良い) →▲Ask your partner one question again? (2 人) →▲What does your partner like? / What is s/he good at? / What is s/he interested in? (有志 2 人) ２．グループトーク：STEP 2-1 (p. 49)	◆No Pauses, Reactions, Eye Contacts のカードを提示 ◆机間指導

■教科書を開かせて、活動を確認。Tool Box の表現も確認しリピートする。（p. 51 の職業にも触れる） 〇グループで互いに向いていると思う職業について話し合う	◆机間指導
３．Memo Writing：STEP 2-2 (p. 49) 〇グループワークをもとに、英文を書く →グループ内で共有してミスがあれば直し合う →提出箱に提出→良い文を板書して共有	◆机間指導
４．教科書の例確認：STEP 3-1 (p. 50) ■教科書の例を読む →〇グループで、この例の良いところはどこか話し合う →全体共有 ・ミスがない　・エピソードがある　・接続詞が使われている ・体裁が整っている　・メモが有効活用されている	◆生徒から即座に意見が出てこなければ促す
５．パフォーマンステストの詳細説明と目標設定 ■評価用紙を配布して説明 →〇個人で目標を立てる	◆机間指導

板書計画

A Message to Myself in the Future へ向けて

-What _____like? /　　I will _.

-What _____favorite (〇〇)?

-What _____good at?　　It is important to_____.

-What _____interested in?

No Pauses　Reactions　Eye Contacts

良い文章とは？

・ミスがない　・エピソードがある　・接続詞が使われている
・体裁が整っている　・メモが有効活用されている

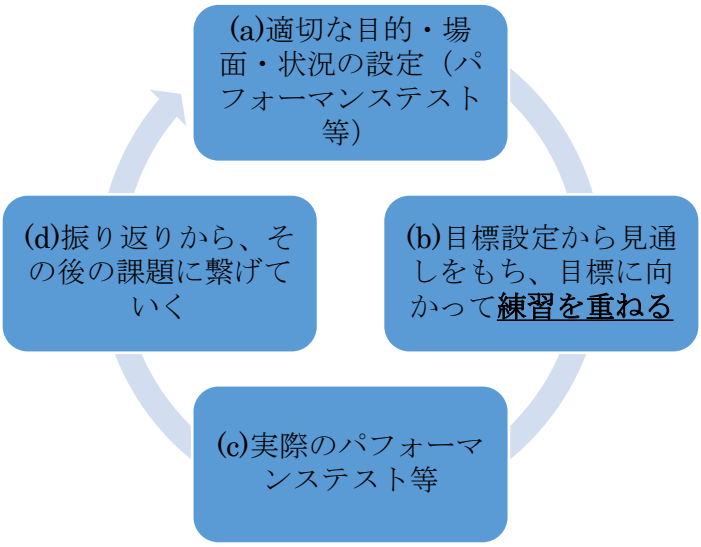
７．英語科における主張

(1)　英語科における「深い学び」の具現に向けて影響力を発揮し合う「学び合い」

英語科・外国語科における深い学びとは、「言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを話したり書いたりする中で、外国語教育における「見方･考え方」を働かせて思考･判断･表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる｢深い学び｣につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする」（中央教育審議会答申、2016）とあり、外国語教育における見方・考え方とは、「外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること」（中学校学習指導要領）とある。

本校では、外国語活動・英語科においては、「コミュニケーション力」の育成に焦点をあて、研究を進めてきた。ここでは、外国語活動・英語科における「コミュニケーション力」育成のプロセスを示したい。

まず、単元ごと等の大きな学習サイクルを示す。(a)設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。(b)次に目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立て、日々のスモールトークやよりコントロールされた状況下での練習を行っていく。この段階でどれだけ生徒が目的に応じた力をつけていけるかが大きなポイントとなる。(c)そして目的達成のため、実際にコミュニケーションを行う。(d)最後に言語面・内容面で学習のまとめと振り返りを行う。



(d)が次なる課題(a)に直接的に生きるような課題の配列が望ましいが、様々な場面や技能があるため、シラバス上簡単にいかないことも多い。しかし、また類似した場面や技能を含む課題に出合ったときに思い出させて、学習の接続を意識させる。こうして上記のようなサイクルを意識した実践を展開していきたい。また、特に(b)の段階における、実際の場面を想定したコミュニケーションに繋がる学び合い（対話的な学習）が、コミュニケーション力の育成に不可欠であるので、(b)の活動を各単元で工夫し、充実させる。そのことが、このサイクルを最大限に生かすこと、そして、生徒のコミュニケーション力の最適な育成に繋がる。

この学習サイクルの中で、学んだことの意味づけを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

次に、実際の授業場面を想定した、より具体的な手立てについて詳述する。

主張する手立て

① コミュニケーションの目的や場面，状況などを明確にした言語活動の設定

② より適切な表現や考え、根拠に気付かせる工夫

①に関して、上記のサイクルをスムーズに機能させていくためにも、出だしの場面設定が肝要となる。不自然だったり、現実から乖離したりしているようなものだと、その後の全ての活動の意義が薄れてしまうからである。故に、英語科においては、言語や文化等についての「知識・技能」を身に付け、既習の知識・情報等と関連付けて深く理解し、それらをコミュニケーションの「目的、場面、状況」等に応じて相手への配慮を行いながら活用し、「思考、判断、表現」できるようになることを目指している。そのため、「なんのために」「どういう場面、状況で」「どのような条件等が」あり、「どういう相手に対して」表現するのかを明らかにした言語活動を設定する必要がある。その際、子供の発達段階や興味・関心に合わせ、実際の英語の使用場面に即した題材を扱うように工夫する。生徒はその設定を理解した上で、目的を立て、明確な見通しをもち、課題達成に向けた練習や活動に意欲的に取り組むことができる。

②に関して、自分の伝えたいことをどのように表現したら伝えられるか、実際のコミュニケーションの中で疑問に感じたり、経験したりする中で、言語材料と出会うことで必要感をもって学習することができる。そのために、「こういう時にはこういう言い方をするのか」といった気づきを与えるに

足る、教師と生徒間、及び生徒同士が影響力を発揮し合えるインタラクションや資料提示を行う。また、内容面や言語面の指導を教師から一方的に行うのではなく、子供の気付きを引き出しながら、子供が自分の考えと他者の考えを比べたり、互いに影響力を発揮する中でより適切な表現を考えたりできるようにすることで、言語形式と意味を結び付けて考え、自ら表現を構築できるようにする。その中で、より活発に生徒間で影響力を発揮させるためには、教師からの一方的な説明や提示だけではなく、生徒に適切な目標や表現、活動の反省等についてよく考えさせたり、生徒間でペアワークやグループワークを行ったりすることが欠かせない。そして、ただ単にそういった活動を設けるのではなく、生徒たちがお互いから学び合える、言わば、互いに影響力を発揮しやすいような働きかけが求められる。

考えられる具体的な仕掛けは、生徒の発話の間違いをリキャストにより気づきを促したり、使いたい表現を思い出そうとしている生徒に、正答となる語句を直接教えるのではなく、ヒントやプロンプトを与えて、なるべく自分で気づけるよう仕向ける方法が有効である。また、正しい表現に気づかせるために、こちらで予め用意しておいた誤答や、机間指導等で見つけた生徒の誤り、もしくは生徒からの疑問を全体で共有し、全体やグループにより適切だったり、正確だったりする表現に気づかせるなどの方法がある。

どの具体的な仕掛けをいつ用いるかについては、それぞれの授業や学習内容によって変わってくるので、その選択とタイミング等に気を付けながら、単元や授業の計画を組み立てていく必要がある。

(2)　授業の主張点

①５での場面設定確認（状況を理解して適切な表現について考える）

②２でのグループ内での意見交換（他者の表現からの気づき）
３での話し合っ確認する場面と共有する場面
（他者の表現からの気づきと正しい英語使用への意識）
４での話し合って確認する場面（他者の表現からの気づきと正しい英語使用への意識）

引用・参考文献

・文部科学省　「学習指導要領（平成二十九年告示）解説　外国語編」、日本文教出版、２０１８
・文部科学省　国立教育政策研究所　『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』、東洋館出版社